

令和3年度 第1回南砺市立病院運営改革委員会

日時 令和3年12月27日(月) 19:00～20:30
場所 南砺市地域包括ケアセンター 2階 多目的研修室
出席者 委員5名 中山繁實(委員長)、松本久介(副委員長)、長瀬啓介、村井眞須美、鍛冶本秀子
市当局14名 市長 田中幹夫
副市長 齊藤宗人
(地域包括医療ケア部) 井口部長、島崎次長、松田次長
(南砺市民病院) 清水院長、笠井事務局長、藤井総務課長、桜野医事課長
(公立南砺中央病院) 三浦院長、小又事務局長、南部総務課長
長谷川医事課長
傍聴者なし (医療課) 松岩医療課長、山田主幹、小原主任
欠席者 委員4名 山城清二、松倉知晴、松智彦、田中由利子

1 開会 19:00

2 開会の挨拶 田中市長

3 委員の紹介と委員長及び副委員長の選任

資料1に基づき、医療課長から各委員の紹介

設置規定に基づき、委員の中から委員長及び副委員長の選任方法について協議

委員から、円滑な議事進行のため、事務局推薦案を依頼

医療課長から、事務局案として、委員長に中山委員、副委員長に松本委員を推薦

【各委員からの質疑等はなく、拍手にて承認】

本委員会委員長に中山委員、副委員長に松本委員が就任

【中山委員長から挨拶、以下委員長による議事進行】

4 協議事項

① 南砺市立病院運営改革委員会委員について

委員長及び副委員長を加除した資料1に基づき、医療課長から各委員の紹介

【質疑等はなし】

② 南砺市病院事業会計決算の概要について

資料2に基づき、医療課長、両病院総務課長から説明

【質疑等はなし】

③ 新南砺市立病院改革プラン（平成28年度～令和2年度）の実施状況について

資料3-1、資料3-2に基づき、両病院総務課長から主に赤字部を説明

【質疑応答】

委員	<p>公立南砺中央病院のプラン実施状況（資料3-2「別紙1_3. 一般会計等からの繰入金の見通し」）について</p> <p>令和2年度の基準外繰入額実績が大きく変動している理由は？</p>
公立南砺中央病院 総務課長	<p>令和元年度実績と比して基準外繰入額が減少しているのは、令和2年度に新たな繰出基準（不採算中核病院の運営に係る経費）が創設され、基準外繰入の一部を基準内繰入へと移行したことによる。</p>
委員	<p>南砺市民病院のプラン実施状況（資料3-1「経営の効率化（数値目標達成に向けての具体的な取組計画及び実績）」の「2）経費削減・抑制対策」について）</p> <p>新型コロナウイルス対応備品等の購入により材料費が増加とあるが、診療材料費の対医業収益比率は対前年比で下がっている。コロナ禍により医業収益が減少しているため、説明のとおりだとすれば当該比率は大きくならなければならないのでは？</p>
南砺市民病院 総務課長	<p>新型コロナウイルス対応備品等の購入により材料費が増加した一方、診療材料費は大きく落ち込んだことから、診療材料費の対医業収益比率は対前年比で下がっている。</p>

委員	<p>公立南砺中央病院のプラン実施状況（資料3-2「医療機能等指標に係る数値目標」の「2)患者満足度」について）</p> <p>全般的に数値が下がっており、地域住民の期待に応えられていない可能性や十分なコミュニケーションがなされていない可能性があるか？</p>
公立南砺中央病院 総務課長	<p>患者の声などを参考に今後とも満足度の高い医療をめざしていきたい。</p>
委員	<p>両病院のプラン実施状況（資料3-1、資料3-2「経営指標に係る数値目標」の「3)収入確保に係るもの」について）</p> <p>新型コロナウイルス対応の影響で来院者数が減少するという理由について、どのようなことが考えられるか？</p>
南砺市民病院 総務課長	<p>来院時の感染リスクを下げるため、受診間隔を開ける措置を行ったこと、高齢者の重篤化リスクが高いことが当初から知られているため、高齢者の受診控えがなされていることが考えられる。また、入院患者の面会制限などからも入院を控える傾向がある。</p>
委員	<p>定期的な病院の処方箋が必要な患者も多いと考えられるが、それでも受診間隔は伸びる傾向があり、患者が減少するのか？</p>
南砺市民病院 院長	<p>内科・小児科では感染症の患者が減少しており、特にインフルエンザの患者はほとんど発生しなかった。また、新型コロナ対策を行っていることや、外出の機会が減少することで、感染症が減少している。砺波広域圏の急患センターでも小児救急の件数が大幅に減少している。</p>
委員	<p>南砺市民病院のプラン実施状況（資料3-1「数値目標達成に向けての具体的な取組計画及び実績」の「その他」について）</p> <p>病院機能評価などの外部審査機関による病院評価はもっとPRす</p>

	ることで、医師の募集や患者の集客につながるのではないかと？
南砺市民病院 院長	外部審査機関による病院評価については、安全で質の高い医療を提供できるということにつながることから、今後とも積極的に外部に発信していきたい。
委員	両病院のプラン実施状況（資料3-1、資料3-2「医療機能等指標に係る数値目標」の「1)医療機能・医療品質に係るもの」の「手術件数」について） 近年、ロボットを活用した手術について、術後の侵襲が少ないなどという報道もあるが、実績はあるか？
南砺市民病院 院長、総務課長	ダビンチなどのロボット手術が該当すると思われるが、高度急性期病院での特殊な手術で活用されているのが現状で、当院では該当しない。内視鏡手術など侵襲の少ない手術を積極的に行っている。
委員	患者は大きな病院に向かう傾向があり、地元の病院でも安心して医療を受けられることをPRしてほしい。
南砺市民病院 院長	公的病院であることもあり、病院のPRについては、今後とも適切に行いたい。
委員長	公立南砺中央病院のプラン実施状況（資料3-2「数値目標達成に向けての具体的な取組計画及び実績」の「収入増加・確保対策」について） 「計画」では「3)診療報酬の改定による加算点数の解析を行い、当院での現状と対策を検討する。」となっているが、「実績」については、「3)未実施」となっているが、その理由は何か？
公立南砺中央病院 総務課長	診療報酬改定については、令和4年4月に予定されており、令和2年度の時点ではまだ、情報収集を行っていなかったため、未実施となっている。令和3年度には予定通り調査を実施している。

医療課長	<p>欠席委員からの事前コメント紹介</p> <p>新型コロナウイルス対応の中、両病院とも経営改善の努力が認められる。</p> <p>市民病院では若い医師の確保に努めており、中央病院では整形外科入院数を伸ばすなど評価できる。</p>
------	--

5 報告事項

① 新南砺市立病院改革プラン（令和3年度～令和7年度）について

「報告資料1」に基づき医療課長から策定経緯、両総務課長から主に赤字部を説明

【質疑応答】

委員	<p>新南砺市立病院改革プラン（公立南砺中央病院）について</p> <p>国の令和6年3月末の介護療養病床の廃止を受け、6階の介護療養病床を転換し、療養病棟入院基本料1から2にしているが、介護難民が発生するのではないか？公的病院の役割からもどこかで受け入れ先を確保すべきではないか？</p>
委員	<p>南砺市に24時間365日型の訪問看護・介護のサービスが平成28年度から実施され、在宅療養の新しい形も出来上がりつつある。自宅の状況と本人の意思を尊重した訪問サービスの組み合わせを活用しておられる方もおられる。</p>
委員	<p>今後さらに在宅医療に力を入れていく方向は必要であるが、一方で介護療養の方が利用できる病床は将来的にも必要ではないか？</p>
公立南砺中央病院 事務局長	<p>療養病棟入院基本料2に転換することにより、医療区分2・3の方が50%以上という条件になるため、介護療養の対象者で行先の無いかたについては、そのまま利用していただくことを想定している。</p>
委員	<p>一人ひとり患者さんの状況が異なり、南砺市においては地域的にもそのような状況に対応できる良さがある。</p>

委員	在宅医療と病院とを結ぶクリニカルパスのような観点で、病院に行くことが困難な方の一定期間ごとの医療評価ができる仕組みがあれば、安心して在宅を希望される方が増えるのではないかと考えている。
----	--

② 南砺市立病院将来ビジョンについて

「報告資料2」に基づき医療課長から説明

【コメント】

委員	長期の計画については、結果とともに推計した根拠を市民などに公表して検証ができるように配慮する必要がある。
委員	将来ビジョンの策定については、両病院と行政と連携して、前に進めてほしい。

③ 家庭・地域医療センター 児童精神科・心療内科「こどものえがおクリニック」の受診状況について

「報告資料3」に基づき医療課長から説明

【コメント・質疑等はなし】

6 次回の予定

「次第」に基づき医療課長から報告

令和4年3月8日（火） 19:00から 地域包括ケアセンター 2階多目的研修

来年度予算・決算見込みが主な議題

【コメント・質疑等はなし】

7 閉会の挨拶 田中市長

8 閉会